

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100418		
法人名	株式会社 ライフテラス		
事業所名	グループホーム 憩いの生活館-いっく-		
所在地	高知市一宮東町一丁目26-3		
自己評価作成日	平成28年5月15日	評価結果 市町村受理日	平成28年8月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者様もスタッフも笑顔で」をモットーに入居者様の声に耳を傾け家族の皆様とも連携を取り、本人様が望むサービスを提供できるよう心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JiryosyoCd=3990100418-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年6月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」その人らしさを大切に生活を送る、という事業所開設時の理念に、「笑顔」を加え、利用者が笑顔ある暮らしができるように職員一人ひとりが目標を立て、利用者が「不快に思うことはしない」、「先回りのケアを心掛ける」等を掲げ、理念の実践に努めている。

昨年度は事業所の内部研修の一環として、1年かけて外部講師の指導のもとに「身体拘束予防のマニュアル」と「感染症予防マニュアル」を職員全員で作成し、今年度は職員間でそのマニュアルを共有し、感染症予防の徹底と身体拘束をしないケアの実践に努めている。

また、利用者の日々の暮らしをインターネットで家族に配信し、家族がパスワードでいつでも見れるようにして遠隔地の家族にも安心を与えている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまもも

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ホールに理念を掲示して、いつでも見えるようにしている。近隣の行事へ見学にいたり近所を散策するなど、好みの事ができるように心掛けている。	「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」その人らしさを大切に生活を送る、という事業所開設時の理念に、「笑顔」を加え、利用者が笑顔ある暮らしができるよう、個々の職員が理念に基づく目標を掲げ、理念の実践につなげている。理念はユニットの見やすい場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物に出かけ、レジの支払いや店員さんと話をしたり、近隣の住民と話をするなど地域との交流を出来る限り出来るよう努めている。幼稚園の訪問や小学校の社会科見学などに、事業所を利用してもらい交流がある。	町内会に加入し、地域情報を得ている。法人開催の祭りや認知症カフェに参加し、地区住民と交流している。幼稚園や小学校から運動会への招待を受け、幼稚園は年1回事業所を訪問し、園児が作品を贈るなどの交流が続いている。地元のスーパーとは、食材の買い物などで顔なじみになっている。	幼稚園や小学校とは行事を通じ交流しているが、周辺住民との関わりが少ないので、事業所の福祉避難所としての役割や防災訓練への住民参加の呼び掛けなどを通じて、地域の一員としてのつながりを築くことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に1回地域交流室を開放し、「いきいき百歳体操」を近所の方と行っている。小学校等の社会科見学会に施設を活用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・事故・入退去者・入院・防災の報告を行い、地域の代表、家族、市の職員等と意見交換し情報交換している。	会議は地域包括支援センターや家族代表が参加し、利用者の状況報告、行事、外部評価の報告等を議題にしている。地域住民には参加を呼び掛けているが、参加がなく、意見交換ができていない。議事録は所内に掲示し、家族にはインターネットで配信している。	利用者の参加や、町内会長だけでなく民生委員や他の地区組織等にも呼びかけ、活発な意見交換ができる会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、事業係や福祉課等の各担当者を訪問し相談している。「いきいき百歳体操」では北部地域高齢者支援センターとの協力関係がある。	市や市社会福祉協議会が開催する研修に参加している。地域包括支援センターとは利用者の状況や地区の高齢者の状況等について、連絡を取りあい協力関係を築いている。また、グループホーム連絡会でも地域包括支援センターと情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加してもらい、職員に内容をユニット会で報告して周知を促している。また定期的に資料を配布している。	昨年1年をかけて、全職員で「身体拘束予防マニュアル」を作成し、実践につなげている。外部研修に参加した職員は、伝達研修で他の職員に報告している。玄関は日中施錠せず、見守りとチャイムで安全を確保している。言葉による拘束が見られた時は、管理者がその都度注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年外部の研修に参加してもらい、職員に周知を促している。また、月に1度のユニット会を行い、話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を立てている方の説明を職員にし、周知できるようにしている。また実際に成年後見人が訪問した際には、職員に紹介し説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から本人様・家族様に直接説明したり説明の文章を送るなどして疑問点を尋ね、説明し納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族の意見を聞ける環境を作っている。家族会総会では家族だけで話せる場を設け、意見交換し質問に返答をしている。	家族の面会時に、管理者が要望等を聞いている。年1回開催の家族会総会には半数程度の家族が参加しており、アンケートにより意見や要望を聞いている。また、家族だけで話し合う時間を設け、家族同士の交流と意見や要望を出しやすくしている。出された意見、要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会を開催し意見交換をしている。ユニット会には代表・管理者も参加し、意見交換や報告等を行っている。	職員が意見を言いやすい環境をつくっている。ユニット会には法人代表も参加し、職員の意見を聞いて事業所の運営に反映している。職員は利用者の状況に合わせた入浴時間や勤務時間の変更等を提案し、柔軟に対応できる体制を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況等を確認しながら、問題点を職員に確認しながら業務が円滑に行えるように環境を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が順番に研修に参加でき、希望の研修があれば管理者に相談することで勤務調整し、参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加してグループワーク等で意見交換を行い、交流を図っている。同業者の方に、当グループホームへの見学・訪問を勧めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活が送れるように話を傾聴し、不安に思っている事があれば職員間で相談し改善出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の面会時にご本人様の様子を伝えると共に、不安に思っていること要望等を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取り調査を参考に職員と話し合い検討し、より良い支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員本意に考えず、入居者様の意向を聞いて信頼できる関係が築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	月に1度家族あてに手紙を出し、日々の近況報告を行っている。面会時も精神面や体調面などを報告。取り組みを伝え、家族も状態が分かる様に努めている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	入居者様が希望される時は電話を掛けたり手紙を書いたりしている。また、散歩や買い物にて近隣の住民と会話をし、馴染みの関係や新しい関係を作っている。	家族と一緒に墓参りに出かけたり、受診の帰りに家族と馴染みの外食店に立ち寄り利用者や、あまり面会に来れない家族と手紙のやり取りをしている利用者もある。知人の来訪や近隣住民との交流を通じ、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	入居者様の関係性を重視し、配席を考えている。スタッフが仲介して、関わりを持ちやすいように支援している。		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	サービス利用を終了した利用者様の家族とも連絡・相談できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居者様が安心、無理なく生活できるように体調変化など、その都度申し送りをするなど情報を共有している。意思疎通が難しい方は日々の動作や家族から情報をもらい、思いを汲み取る様にしている。	入居時に利用者、家族の希望や意向を聞き取っている。入居後は利用者と会話してその都度意向を確認したり、意思疎通が難しい利用者には、表情や暮らしの様子から思いの把握に努めている。また、家族の面会時にも家族の意向の確認に努めている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	本人の生活歴や環境を、本人または家族や知人から情報を収集し、今までの生活の様子を把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りで情報の共有に努め、代わりがあれば職員間で相談し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、看護職員で情報を共有し意見交換を行うと共に、本人・家族の意見・要望を取り入れた介護計画を作成し定期的に見直しを行っている。	確認できた利用者や家族の意向をユニット会で検討し、職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。3カ月に1回介護計画を見直すほか、利用者の状態変化時には随時見直し、状況に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら実施し、気づいた事があった際、また入居者様に変化があった際は介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、入院時は退院支援室等と連絡を行うようにしている。また、訪問理容や栄養バランスを考え配食サービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園・小学校・高校と交流が行えるよう、運営推進会議などで情報を収集し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している方もおり、必要に応じて希望の病院受診を行える体制を取っており、状態や家族の要望に応じて職員が同行している。	利用者、家族が希望する医療機関での受診を基本とし、緊急時に備え月1回往診専門の医療機関から全利用者が診察を受けている。協力医以外の受診は基本的に家族が対応している。受診結果は家族から報告を受け個人記録で共有し、事業所の看護師が日々の健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態を看護師に報告・相談し、変化がある場合は24時間体制で相談し指示が得られるようにして入居者様に安心して過ごしてもらえるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報を提供し、日頃の状態を電話連絡や直接入院先へ出向き、担当看護師や医師等と家族の意向を含めて話し、地域連携室等と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様、家族様に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。医療と24時間体制での連携を確保し支援している。	毎年、利用者・家族に終末期の対応をアンケートで確認し、医療との連携体制を築いている。事業所での看取り事例はないが、過去に24時間対応の訪問診療と訪問看護により、終末期まで事業所でケアし、緩和ケアの医療機関で終末を迎えた事例が数例ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルや、緊急時のフローチャートをいつでも見える場所に掲示し、迅速な対応が出来るようにしている。また、看護師より対応についてケースに合わせ打合せをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・日中を想定し、防災避難訓練を定期的実施している。また、隣接している有料老人ホームの職員とも協力し実施している。福祉避難所の指定も受け、災害に備えている。	隣接の有料老人ホームと合同で年2回、日中と夜間想定火災避難訓練を行っている。事業所と有料老人ホームは2階に連絡通路があり、両施設職員の協力体制を築いている。事業所は福祉避難所の指定を受けており、各ユニットに食糧等を3日分と隣接有料老人ホームに1週間分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様と接する場合、視線を同じ高さに合わせて表情を見ながら傾聴し、その方が笑顔で過ごして頂けるように努めている。	申し送り時は職員の声の大きさに注意したり、利用者の名前を伏せて伝達するなど、プライバシーに配慮している。利用者が排泄を失敗した時は、トイレに隣接する浴室で他にわからないよう速やかに対応するなど、誇りを傷つけない支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分での自己決定ができるような声かけをし、わかりやすく提案するように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを保ち急がさない、焦らせないように注意し声かけ、促しをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望を聞き、服を選んだり購入したりしている。訪問理容などを利用している。家族と相談し、パーマ・カラーなど好きな髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の出来る範囲で調理への参加を促し、盛り付けや配膳を一緒に行っている。入居者様の好みや希望をメニューに取り入れ、食事を作る様にしている。	献立と食材は委託業者が配達し、各ユニットで調理している。盛り付けや、後片付けは利用者と一緒にいき、職員は利用者と一緒に食事している。献立には利用者の嗜好を反映しているが、週に1回は自由食として利用者の希望で献立で、買い物、調理も利用者と一緒にして食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の配食メニューが配達され、偏らない食事提供に努めている。毎食、摂取量・水分量を確認し記録し、食事量の減少や脱水に注意している。摂取量が少ない方にはゼリーを提供するなど、個々で変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、毎晩義歯の洗浄を行っている。本人の要望を聞きながら歯科医の訪問診療も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の無い方に対して排泄のパターンを把握し、時間誘導を行い自力排泄を促している。また、表情や行動などから尿・便意を確認し、誘導を行っている。	各利用者の排泄パターンを把握し、利用者に応じた声掛けや、トイレ誘導をすることで排泄の失敗が少なくなるよう支援している。夜間、頻尿の利用者もいるが、見守りやトイレ誘導で安全を確保している。現在は夜間のポータブルトイレの使用とパッド交換で支援し、おむつを使用している利用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく下剤を使用せず排便が出来るように、食物繊維と水分補給が摂取できるように努めている。状態に応じ看護師に相談し、指示をもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人から入浴のアセスメントをとり、希望を聞き好みの時間で入浴している。一般家庭と同じ雰囲気を保つように心がけ、毎日でも入れる環境を作っている。	午前、午後とも、利用者が希望する時間に入浴を支援し、毎日の入浴もできる。入浴を希望しない利用者にも、言葉かけ等を工夫し、週3回は入浴できるよう働きかけている。どうしても入浴を拒否する時は、足浴や清拭で清潔を保つようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、居室での休息を希望される方には誘導を行っている。定期的に布団干し、シーツ交換を行う事や居室の灯りの調整を行い、入眠しやすい環境を提供できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々がどのような薬を飲んでいるか職員に周知するよう促し、症状の変化の確認に努めている。薬が変わった際には看護師より申し送りを行っている。服薬時には他職員と一緒に確認し、名前・日付・朝・昼・夕を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る家事は協力してもらい、得意なものを把握し家事援助をしている。また、買い物・散歩などに出掛け気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩に誘い、一緒に出掛けている。家族と一緒に掛けるときもあり、月に1回は遠出の外出を計画し実施している。	買い物や外食、季節の花の見物等、月に1回は外出の機会を設けて、車いすの利用者も一緒に出掛けている。週1回の自由食の日は、近くのスーパーに出かけて食材やおやつの買い物を楽しんでいる。利用者の外出の様子はインターネットでパスワードにより配信し、家族に様子を知らせている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の入居者様にはお金を持ちたい気持ちを尊重し、家族の了承を得て、自己理解できる程度のお金を持っていただいている。また、外出などの買い物時には、自身で払えるよう声掛け等行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援をしている。手紙を書いたり、年賀状などを書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事を楽しめる環境が作れるように、3食の調理へ参加してもらっている。季節を感じてもらえるよう季節に合わせた飾り付けを行うことや、入居者様の要望に応じて照明・湿度・温度の調整を行うなど、環境整備をしている。	食堂兼居間は清掃が行き届き、明るくゆったりとしたスペースがある。キッチンからユニット全体が見渡せ、利用者を見守りやすい構造になっている。廊下に幼稚園児の作品や外出時の利用者の写真を飾り、温かみのある空間を工夫している。トイレも広く職員が安全に、無理なく利用者を介護できている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に、季節に合わせた飾りなどを一緒に作っている。ソファや畳のスペースを設置し、自分のくつろぐ空間が保てるようにしている。気の合う入居者同士、隣あわせの席に座るなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物、時計・仏壇・寝具を使用している。出来る限り今まで住んでいた居室環境に近づけるよう努めている。	居室は清掃して清潔を保ち、面積が広く、利用者それぞれの好みの家具やテレビ、仏壇等馴染みの物を置いて、居心地良く過ごせる居室にしている。希望する利用者は毎日の清掃を職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレなどに手すりなどを設置し、入居者様が使いやすい高さになっている。食事の際には踏み台を使用するなどして、座位の調整を行い正しい姿勢で食べれるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆず

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ホールに理念を掲示して、いつでも見えるようにしている。近隣の行事へ見学にいたり近所を散策するなど、好みの事ができるよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物に出かけ、レジの支払いや店員さんと話をしたり、近隣の住民と話をするなど地域との交流が出来る限り出来るよう努めている。幼稚園の訪問や小学校の社会科見学などに利用してもらい、交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週に1回地域交流室を開放し、「いきいき百歳体操」を近所の方と行っている。小学校等の社会科見学に施設を活用してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・事故・入退去者・入院・防災の報告を行い、地域の代表、家族、市の職員等と意見交換し情報交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、事業係や福祉課等の各担当者を訪問し相談している。「いきいき百歳体操」では北部地域高齢者支援センターとの協力関係がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加してもらい、職員に内容をユニット会で報告して周知を促している。また、定期的に資料を配布し注意している。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年、外部の研修に参加してもらい職員に周知を促している。また、月に1度のユニット会を行い、話し合いの場を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>実際に成年後見人を立てている方の説明を職員にし、周知できるようにしている。また、実際に成年後見人が訪問した際には職員に紹介説明をしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者から本人様・家族様に直接説明したり、説明の文章を送るなどして疑問点を尋ね、説明し納得できるように努めている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、家族の意見を聞ける環境を作っている。家族会総会では家族だけで話せる場を設け意見交換し、質問に返答をしている。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会を開催し、意見交換をしている。ユニット会には代表・管理者も参加し、意見交換や報告等を行っている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務状況等を確認しながら、問題点を職員に確認しながら業務が円滑に行えるように環境を整備している。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が順番に研修に参加でき、希望の研修があれば管理者に相談することで勤務調整し、参加できるようにしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修に参加し、同業者と意見交換をしている。北部地域のグループホーム連絡会に参加し、同業者と情報交換をしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に事前面談を行い、生活歴や状況を把握し本人や家族と話をし、全職員が統一したケアを行えるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階で家族ともコミュニケーションを図り、不安に思う事や要望等を話し合う事で信頼関係を築くように努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>聞き取り調査を参考に職員と話し合い検討し、より良い支援ができるように努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様が「自分は必要とされている」と思えるよう、それぞれできる作業を見つけ、実施していただけるよう声掛けし、皆が協力して生活していける関係を築いている。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>月に1度家族あてに手紙を出し、日々の近況報告を行っている。面会時も精神面や体調面などを報告し、取り組みを伝え家族も状態が分かる様に努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者様が希望される時は、電話を掛けたり手紙を書いたりしている。また、散歩や買い物にて近隣の住民と会話をしたり、馴染みの関係や新しい関係を作っている。また家族に昔の写真を持ってきていただき、話を聞く事で情報収集を行い会話に役立てている。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様の性格や出来ることなどを考慮しながら、座れる席や作業内容をその都度変更しながら、会話する機会を作り関わり合いを持てるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用が終了した利用者様の家族とも連絡・相談できるように努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者様が安心、無理なく生活できるように体調変化など、その都度申し送りをするなど情報を共有している。意思疎通が難しい方は、日々の動作や家族から情報をもらい、思いをくみ取る様にしている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人の生活歴や環境を本人または家族や知人から情報を収集し、今までの生活の様子を把握できるよう努めている。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の生活から一人ひとりの出来ること、出来ない事の把握・理解に努め、職員間で情報交換を行っている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員で情報を共有し、意見交換を行うと共に本人・家族の意見・要望を取り入れた介護計画を作成し、定期的に見直しを行っている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員間で情報を共有しながら実施し、気づいた事があった際、また入居者様に変化があった際は介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制を活かし、入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、入院時は退院支援室等と連絡を行うようにしている。また、訪問理容や栄養バランスを考え配食サービスを利用している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の幼稚園・小学校・高校と交流が行えるよう、運営推進会議などで情報を収集し支援している。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に継続して受診している方もおり、必要に応じて希望の病院受診を行える体制を取っており、状態や家族の要望に応じて職員が同行している。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者様の状態を看護師に報告・相談し、変化がある場合は24時間体制で相談し指示が得られるようにして、入居者様に安心して過ごしてもらえるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には情報を提供し、日頃の状態を電話連絡や直接入院先へ出向き、担当看護師や医師等と家族の意向を含めて話し、地域連携室等と連絡をとっている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者様、家族様に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。医療と24時間体制での連携を確保し支援している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルや、緊急時のフローチャートをいつでも見える場所に掲示し、迅速な対応が出来るようにしている。また、看護師より対応についてケースに合わせ打合せをしている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間・日中を想定し、防災避難訓練を定期的実施している。また、隣接している有料老人ホームの職員とも協力し実施している。福祉避難所の指定も受け災害に備えている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者様と接する場合、目線を同じ高さに合わせ表情を見ながら傾聴し、その方が笑顔で過ごして頂けるように努めている。</p>		

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人が決めることを大切にし、本人希望の飲み物、食事内容の選択、趣味や運動が出来るようにしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者様のペースを保ち、可能な限り共同生活の適用に心がけ、1日の流れが保てる様に支援し、入床・起床も本人の希望に添える様努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人や家族の要望を聞き、服を選んだり購入したりしている。家族と相談し、パーマ・カラーなど好きな髪型にしている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理への参加を促し、盛り付けや配膳と一緒にしている。週1回の自由食では入居者に希望を聞き、一緒に献立を考え自身で食べたい物を選び楽しみの支援をしている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士の配食メニューが配達され、偏らない食事提供に努めている。毎食、摂取量・水分量を確認し記録し、食事量の減少や脱水に注意している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、歯磨きを促し、毎晩義歯の洗浄を行っている。本人の要望を聞きながら歯科医の訪問診療も受けている。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>尿意・便意の無い方に対して排泄のパターンを把握し、時間誘導を行い自力排泄を促している。それぞれのトイレの支援方法を介護計画に記載し、取り組んでいる。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維・乳製品、また水分摂取を促している。看護師に報告し、状態や運動方法について相談している。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>本人から入浴のアセスメントをとり、希望を聞き好みの時間で入浴している。一般家庭と同じ雰囲気を保つように心がけ、毎日でも入れる環境を作っている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中、居室での休息を希望される方には誘導を行っている。定期的に布団干し、シーツ交換を行う事や居室の灯りの調整を行い、入眠しやすい環境を提供できるよう努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々がどのような薬を飲んでいるか、職員に周知するよう促し、症状の変化の確認に努めている。薬が変わった際には看護師より申し送りを行っている。服薬時には他職員と一緒に確認し、名前・日付・朝・昼・夕を声に出して確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>出来る家事は協力してもらい、得意なものを把握し家事援助をしている。また、買い物・散歩などに出掛け気分転換を図っている。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>買い物や散歩に誘い、一緒に出掛けている。家族と一緒に出掛けるときもあり、月に1回は遠出の外出を計画し実施している。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望の入居者様にはお金を持ちたい気持ちを尊重し、家族の了承を得て、自己理解できる程度のお金を持っていただいている。また、外出などの買い物時には自身で払えるよう声掛け等を行い、支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望があれば電話の支援をしている。手紙を書いたり、年賀状などを書けるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食事を楽しめる環境が作れるように、3食の調理へ参加してもらっている。季節を感じてもらえるよう季節に合わせた飾り付けを行うことや、入居者様の要望に応じて照明・湿度・温度の調整を行うなど環境整備をしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペースは清潔を保つため、朝、夜間に掃除を行い、気持ちよく過ごせる空間づくりをしている。温度変化にも気をつけ、毎月季節を感じられるように飾り付けもしている。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や飾り物、時計・仏壇・寝具を使用している。出来る限り今まで住んでいた居室環境に近づけるよう努めている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴室・トイレなどに手すりなどを設置し、入居者様が使いやすい高さになっている。食事の際には踏み台を使用するなどして座位の調整を行い、正しい姿勢で食べれるよう工夫している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				